

# 平成28年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名: 建築安全課  
 担当名: 震災対策・構造指導担当  
 内線: 5523 (単位: 千円)

番号	事業名		会計	款	項	目	説明事業	
B21	住宅・建築物耐震改修促進費		一般会計	土木費	土木管理費	建築指導費	住宅・建築物耐震改修促進費	
事業期間	平成19年度～平成32年度	根拠法令	建築物の耐震改修の促進に関する法律		戦略項目	05 大規模災害への備え		
					分野施策	010502 震災に強いまちづくり		
1 事業の概要			5 事業説明					
平成32年度までに住宅・建築物の耐震化を促進し、震災時の被害を軽減することを目的とする。 被災した建築物の余震等による二次災害を防止するため、応急危険度判定が円滑にできる体制を整備する。  (2) 応急危険度判定体制の整備 △707千円 (3) 耐震診断及び耐震改修の補助制度 ・多数の者が利用する建築物の耐震診断・改修費の補助 △66,045千円 (4) 分譲マンション耐震化優良ストック形成補助事業 △3,000千円			(1) 事業内容 ア 彩の国既存建築物地震対策協議会(構成員:市町村など)を通じ、地震対策を円滑に推進 468千円 イ 応急危険度判定士の養成、訓練及び連絡体制維持 4,052千円→ 3,345千円 ウ 多数の者が利用する民間建築物の耐震改修等に係る経費の一部を補助 153,762千円→ 87,717千円 エ 分譲マンションの建替えや耐震改修などの基本計画策定経費の一部を補助 4,500千円→ 1,500千円  (2) 事業計画 ア 建築物応急危険度判定模擬訓練の実施、応急危険度判定資機材の備蓄 イ 応急危険度判定士養成講習会の開催(年4回) ウ 補助予定件数  平成28年度 耐震診断 13件 → 1件 耐震改修・建替設計 15件 → 2件 耐震改修・建替工事 8件 → 4件 エ 補助予定件数 平成28年度 3件 → 1件  (3) 事業効果 ア 常時応急危険度判定対象数234,424棟分の判定資機材の備蓄 イ 応急危険度判定士数 平成26年度末6,473人 → 平成28年度末6,800人 ウ 多数の者が利用する民間建築物の耐震化率 平成25年度末87% → 平成32年度末95%  (4) 県民・民間活力・職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 協議会との連携、県内3金融機関による融資支援(平成24年12月～)、耐震サポーター制度の実施(平成25年6月～)  (5) 補正予算の概要 委託料契約差金の減額 △630千円 経費節減による減額 △125千円(旅費、需用費、役務費) 補助金の減額、これに伴う国庫支出金の減額 △68,997千円					
2 事業主体及び負担区分								
(1), (2), (4) 県(10/10) (3) 診断(国1/3・県1/3)事業者1/3 耐震改修(建替)設計(国1/3・県1/3)事業者1/3 耐震改修(建替)工事(国11.5%・県11.5%)事業者77%								
3 地方財政措置の状況								
国交付金に対応した県負担の1/2について特別交付税基礎数値に算入								
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員								
9,500千円×3人=28,500千円								
予算額		財源内訳					一般財源	補正後の予算額
決定額	△69,752	国庫支出金					△36,754	93,030
現計額	162,782						86,232	